

第 79 回日本生物地理学会市民シンポジウム『次世代にどのような社会を贈るのか?』

論考「人類が戦争をやめるための生物学」をめぐって

登壇者略歴（あいうえお順）

石戸 光（いしど ひかり）

千葉大学 副理事（国際担当）・教授（国際経済学）。

1991 年東京大学工学部、1993 年同経済学部卒、英ロンドン大学 Ph.D。専門は国際経済論（特にアジア太平洋地域の貿易および投資、APEC を巡る諸課題）。

1993 年より富士銀行勤務を経て、1995-96 年アジア経済研究所開発スクール研修生。1998 年-2000 年、国連開発計画ニューヨークおよびマニラにてプログラム・オフィサー。2002 年よりアジア経済研究所研究員を経て、2005 年に千葉大学助教授、2013 年より現職（この間、2010-11 年にシンガポールの東南アジア研究所

（ISEAS）にて客員研究員）。

主な単著に、『千葉の内なる国際化：地域と教育の現場から』

（2009 年、千葉日報）『地球経済の新しい教科書：金・モノ・情報の世界とわたりあう作法』（2010 年、明石新書）。共著として、『相互依存のグローバル経済学 ―国際公共性を見すえて』（明石書店、2008 年）。論文は、"Financing New and Renewable Energy Systems in the Philippines: People-Centred Development and Global Environment as Public Goods," Journal of Philippine Development, Number Fifty, Second Semester, 2000, Volume XXVII, No.2, pp. 165-198.(2000), "Liberalization of Trade in Services under ASEAN+n FTAs: A Mapping Exercise", Journal of East Asian Economic Integration, June 2012, Volume 16 Number 2, pp.155-204 (2012), "Economic Impacts of FTA on Trade in Services: Some Empirics in East Asia", Journal of International Commerce , Economics and Policy ,Vol. 6、No.2、20 pages (2015)など。

APEC の日本代表専門家（ボゴール目標関連）および貿易投資政策の評価者などを歴任。APEC 研究センタージャパン幹事。

春日井 治（かすがい おさむ）

1948 年生まれ。1972 年から農水省、その後、海外貨物検査株式会社に勤務。2017 年から日本生物地理学会会員。趣味はランの栽培。好きな言葉は「義を見てせざるは勇なきなり」、「存在するものには理由がある」。日本生物地理学会評議員。

加藤 登紀子（かとう ときこ）

1943年ハルビン生まれ。1965年、東京大学在学中に第2回日本アマチュアシャンソンコンクールに優勝し歌手デビュー。1966年「赤い風船」でレコード大賞新人賞、1969年「ひとり寝の子守唄」、1971年「知床旅情」ではミリオンセラーとなりレコード大賞歌唱賞受賞。以後、80枚以上のアルバムと多くのヒット曲を世に送り出す。国内コンサートのみならず、1988年、90年N.Y.カーネギーホール公演をはじめ、世界各地でコンサートを行い1992年、芸術文化活動における功績に対してフランス政府からシュバリエ勲章を授けられた。近年は、FUJI ROCK FESTIVALに毎年出演し、世代やジャンルの垣根を超え観客を魅了し続けている。また年末恒例の日本酒を飲みながら歌う「ほろ酔いコンサート」は2022年に50年を迎え人気のコンサートとして定着している。歌手活動以外では女優として映画『居酒屋兆治』（1983年）に高倉健の女房役として出演した。宮崎駿監督のスタジオジブリ・アニメ映画『紅の豚』（1992年）では声優としてマダム・ジーナ役を演じた。地球環境問題にも取り組み、1997年WWFジャパン顧問及びWWFパンダ大使就任。2000～2011年には環境省・UNEP国連環境計画親善大使に就任。アジア各地を訪れ、自らの目で見たと自然環境の現状を広く伝え、音楽を通じた交流を重ねた。私生活では1972年、学生運動で実刑判決を受け獄中にいた藤本敏夫と結婚し長女を出産。現在子3人、孫7人。次女Yaeは歌手。夫・藤本敏夫(2002年死去)が手掛けた千葉県「鴨川自然王国」を子供達と共に運営し農的暮らしを推進している。

小林 正弥（こばやし まさや）

1963年生まれ。東京大学法学部卒業。2010年より千葉大学大学院社会科学研究院教授。千葉大学公共研究センター長。1995～97年、ケンブリッジ大学客員研究員。専門は政治哲学、公共哲学、比較政治。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特別招聘教授兼任。2010年に放送されたNHK教育テレビ「ハーバード白熱教室」では解説を務め、最近ではポジティブ心理学の研究にも取り組む。日本ポジティブサイコロジイ医学会理事。

小林 佳世子（こばやし かよこ）

埼玉県川越市生まれ。

埼玉県立浦和第一女子高等学校卒。東京女子大学文理学部社会学科卒、東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学、ペン

シルバニア大学経済学研究科留学、南山大学経済学部講師を経て准教授。

専門は、行動経済学、応用ゲーム理論、法と経済学。3児の母。著書に『最後通牒ゲームの謎：進化心理学からみた行動ゲーム理論入門』（第64回（2021年度）日経・経済図書文化賞受賞）。改定英語版は、2025年に“The Mystery of the Ultimatum Game：Why We Are Predictably Irrational”として、Springerより出版。2024年高島國男自遊賞奨励賞受賞。

竹澤 正哲（たけざわ まさのり）

北海道大学文学研究院・教授、日本人間行動進化学会会長。

2001年北海道大学にて博士（行動科学）取得。マックス・プランク人間発達研究所適応的行動認知研究センター研究員（2000～2005）、ティルブルク大学社会科学部助教授（2006～2010）、上智大学総合人間科学部准教授（2010～2012）、マックス・プランク進化人類学研究所人間行動・生態・文化部門客員研究員（2019～2020）などを歴任。専門は社会心理学、進化社会科学。

太刀川 英輔（たちかわ えいすけ）

1981年1月25日生まれ／横浜市出身

デザイン戦略家、NOSIGNER代表、JIDA（公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会）理事長、WDO（国連特殊諮問機関世界デザイン機構）理事、慶應義塾大学SDM（システムデザインマネジメント研究科）大学院特任教授、韓国空間デザイン学会名誉理事、アジアイノベーション大学理事、成蹊大学SOCIETY5.0研究所客員フェロー、ナオライ株式会社CDO社外取締役、株式会社47PLANNING社外取締役、SUSTUS株式会社CDO取締役、HUSKEY株式会社CDO取締役

デザイン戦略家として、気候変動の緩和や適応、再生可能エネルギー、防災、地域活性など社会課題を扱う数々のプロジェクトを手がける。建築、プロダクト、グラフィックなどの高い表現力を発揮するデザイナーとして、グッドデザイン賞金賞、アジアデザイン賞大賞、ドイツデザイン賞金賞をはじめ、国内外で100以上のデザイン賞を受賞。ACC賞審査委員長をはじめ、グッドデザイン賞、DFAA（Design for Asia Awards）、WAF（World Architecture Festival）等の審査員を歴任する。また産学官の様々なセクターの中に変革者を育むため、生物の適応進化から創造性の本質を学ぶ「進化思考」を提唱し、人文科学分野を代表する学術賞「山本七平賞」を受賞。ベ

ネッセ教育研究所の「高等教育の未来を考える会」座長を務めるなど、創造的な教育の普及を進める。

2021年にはアジアで最も歴史あるデザイン団体 JIDA（公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会）の理事長に歴代最年少で就任し、世界デザイン会議の34年ぶりの日本開催などに貢献。2023年からは国連の特殊諮問機関である WDO（World Design Organization）の理事を務め、デザインの社会普及に努めている。（2024/10）

森中 定治（もりなか さだはる）

1949年、三重県四日市生。生物学者（農学博士）。日本生物地理学会会長、綾瀬川を愛する会代表。

趣味：声楽（テノール）、定年後始め2019年、ウィーン・オペレッタコンクール愛好家シニア第1位、2020年東京国際声楽コンクール愛好家シニア第2位、2021年第一回ボイスリーグ戦ケン・カタヤマ賞、2022年第1回さいたま国際音楽コンクール一般の部埼玉県知事賞。民間企業に勤めるも、ライフワークの生物学を生かし、チョウを材料とした分子生物学研究にて、2003年名古屋大学で博士号取得。2003年より日本生物地理学会会長。学会と一般社会をつなぐ試みとして市民シンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか？」を継続して企画実施、人間とは何か、人間社会のあり方について生物学と哲学が深く結びつき、人間の行動（生き様）の原点をなすことを学んできた。単著に『プルトニウム消滅！脱原発の新思考』展望社（2012）。『プルトニウムを解毒し脱原発・脱核兵器への道を切り拓く「生物学」的思考法』電子書籍・22世紀アート（2022）。

共著に『埼玉蝶の世界』埼玉新聞社（1984）、『チョウの生物学』東京大学出版会（2005）、『現代を生きる安藤昌益』お茶の水書房（2013）、『熱帯アジアのチョウ』北隆館（2015）、『ふしぎのお話365』誠文堂新光社（2015）他。